

Startup/Venture Studioによる並行起業モデルの実証と調査研究

京都大学

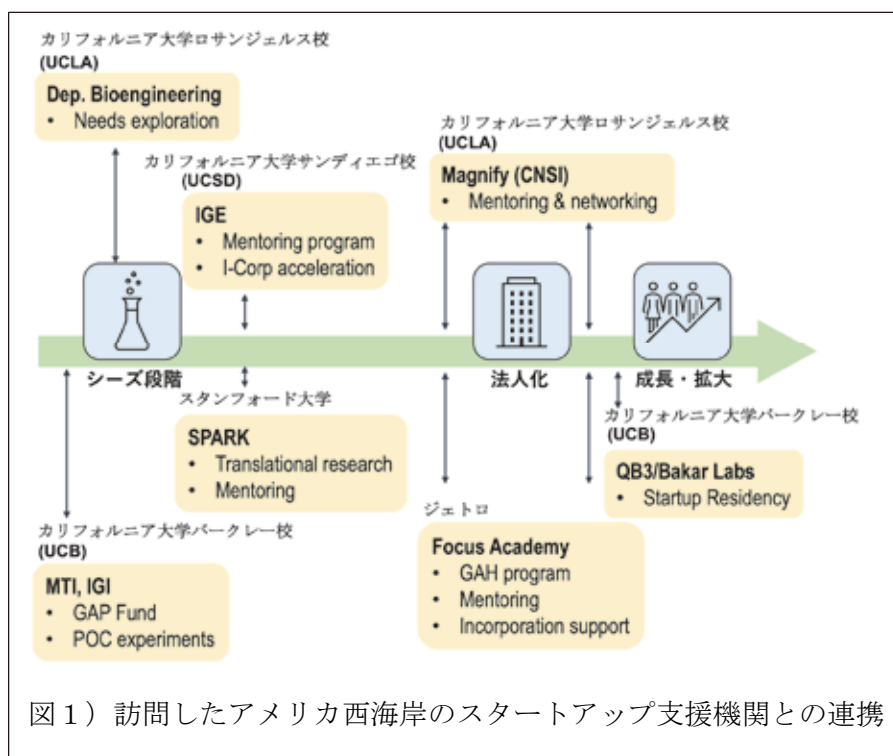
特定拠点准教授 樋口 雅一

1. 調査研究の背景と目的

日本では、大学発スタートアップが研究成果の事業化適性を客観的に判断する仕組みが十分ではなく、特に高度な科学技術を用いるディープテックスタートアップの事業モデルを研究者自身が構築することは大きな負担となっています。また、起業に必要な多様な専門家と個別に連携するには時間と労力がかかり、研究者にとって大きな障害となっています。こうした課題に対して、起業準備を一体的に支援するStartup/Venture Studioという仕組みが有効であると考えられます。京都大学高等研究院 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS) は、このような新しい取り組みを導入しやすい環境を備えており、本調査では iCeMS が実践してきた並行起業モデルを新たな情報収集に基づいて分析し、スタートアップ創出モデルとして整理することを目的としました。

2. 調査の実施内容

iCeMS Venture Studio は、複数の研究成果を同時進行で事業化へ導く仕組みとして設置されました。本調査では、(1) 実証実験として5つのプロジェクトを対象に、ピッチを通じて支援を行い、(2) アメリカ西海岸の主要大学支援機関へのヒアリングを実施し、(3) 関連文献を調査し、(4) 得られた知見を基に理論モデルを構築しました。



3. 調査研究の結果

実証実験では、学内ギャップファンド応募前後の助言、投資家や起業家との接続、アメリカ西海岸のメンター紹介など、具体的な成果を得ることができました。複数の案件を一つの場所で支援することで知見が蓄積され、助言の質も向上しました。アメリカ西海岸の大学支援機関では、教育と人材育成を中心とした支援方針、産業経験者が研究者とともに進める伴走型支援、知財収益の還元スキームや寄付を活用した運営など、共通する特徴が確認されました。訪問した大学における支援プロセスの全体像は図1にまとめています。また、多くの大学では主任研究者 (Principal Investigator) が取締役には就任せず、大学院生やポストクが中心となって起業を進める役割分担が取られていました。さらに、日本とアメリカ双方の支援制度を活用する「二重法人モデル」が国際展開の現実的な選択肢であることも示唆されました。

文献調査では、MITにおいてアカデミア発スタートアップを偶然に頼らず体系的に生み出す仕組みの重要性が強調されており (文献1)、日本では依然として創業数や人材面の課題が存在することも確認されました (文献2)。本調査で得られた知見をもとに、Startup/Venture Studio による並行起業の枠組みを体系化し、iCeMS Venture Studio をモデル化しました (図2)。これは、並行起業モデルが研究者や起業に関わる専門家にとって、限られたリソースから最大限の成果を引き出すための有効な仕組みとして機能することを示しています。

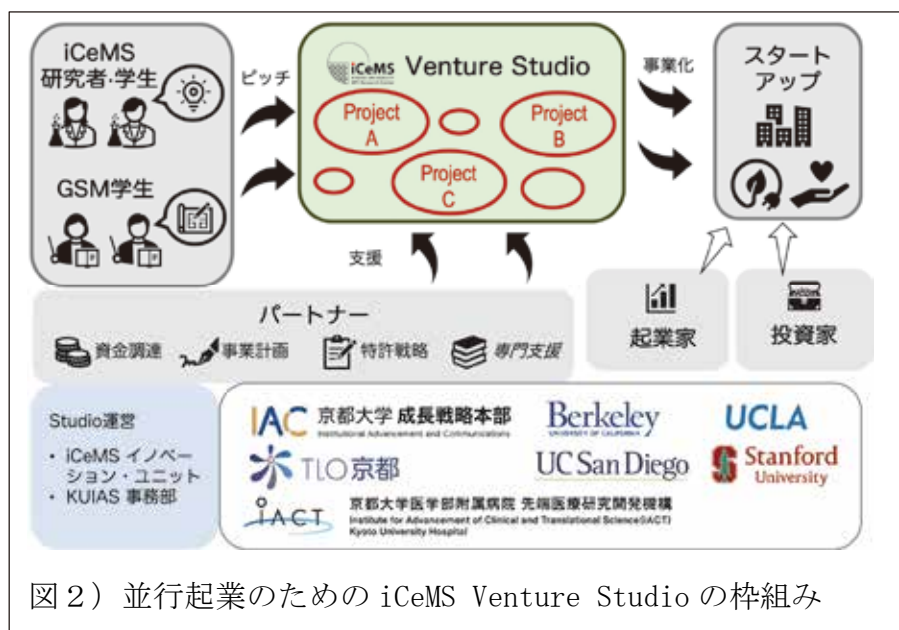


図2) 並行起業のための iCeMS Venture Studio の枠組み

4. 調査研究のまとめと今後の展開

本調査研究では、Startup/Venture Studio が大学の研究成果を社会に届けるための有効な仕組みであることを確認し、その実施に必要な要素や課題を整理し

ました。この仕組みは、研究者と起業に関わる専門家の負担を軽減し、基礎研究と事業化の両立を支える役割を果たします。

実証実験では、5つのプロジェクトに対して助言やネットワーク支援を行い、それぞれの状況に合わせた成長戦略の検討に貢献できました。さらに、海外ヒアリングを通じて、日本の公的支援の特性を踏まえた独自の並行起業モデルが必要であることが明らかになりました。

今後は、iCeMSの国際研究拠点としての強みを活かし、スタートアップ支援やグローバルな資金調達の知見を蓄積していきます。カリフォルニア大学バークレー校の教授を特任教授として招へいすることで、国際的な支援体制やネットワークを一層強化する予定です。また、こうした知見を基に並行起業支援モデルを標準化し、京都大学全体で活用できる手順書の整備を進め、大学発ディープテックスタートアップ創出の基盤形成を目指します。

本調査研究が、並行起業システムの意義や課題に関する議論を深める契機となるものと確信しています。

5. 文献

- 1) MIT Proto Ventures “From MIT, an instruction manual for turning research into startups”
<https://news.mit.edu/2025/from-mit-instruction-manual-for-turning-research-into-startups-0624>
- 2) JST CRDS 「海外の研究開発型スタートアップ支援」報告書（2018）